

# 遠く笑顔がここで生まれる～視点の広がりによる行動変容～

## 学習プログラム案作成までのプロセス

### きっかけは

#### 教師のねがい

海外での体験を持たない青年が、地元いながら実際に海外でパラダイム転換が起きたかのような劇的な変化をしたという話を聞き、感動を覚えた。彼は、ある国際理解講座に参加したことがきっかけで、自身の日常生活を見直し始め、自分と世界とのつながりを意識することができるようになったという。

彼の行動が大きく変化するに至った要因を考えることを通して、参加者が自分自身をふり返り、同じ世界に生きる人同士が共に笑うことができるために、自分にも何かができるということに気づくことで、人は大きく変化するということを伝えたい。



ひとりの青年が当会主催の「遠く笑顔がここで生まれる」という国際理解講座に参加し、衝撃を受けた。その後、会で活動するうちに、さらに視野が広がり、ものの見方も劇的に変化し、常に世界とのつながりを意識して行動するようになった。

その「青年M」の実体験をもとに、異なる立場にたって考えることで視野の広がりを認識し、ものごとの背景を読み取る想像力を育むきっかけづくりを行いたい。また、知るだけでなく「自ら気づき、考え、行動する」ということを念頭においた会の講座の特色を活かした主体的な学びを促したい。

#### NGOのおもい



### こんなふうにつくりました

#### 1 チームミーティング(9月3日)「互いを知る、ねらいの共有」

##### 成果

- ・ NGO、小学校、公民館、それぞれの立場での国際理解講座への思いを共有。「かるみあ」で活動して間もない「青年M」の気づきや行動変化が、教材のいい素案になるということを確認した。

##### 課題

- ・ 講座の中で、参加者自身が新たな視点に気づくきっかけをどう入れるか？
- ・ 気づきから行動への流れをどう作っていくか？



ミーティング風景

#### 2~3 チームミーティング(9月21日、10月22日)「教材開発」 ○「レヌカの学び」体験 ○ 講座案作成

##### 成果

- ・ 「青年M」の変化がそのまま教材になると気づいた。
- ・ 「青年M」の変化を6つの日常の視点に絞り込むことができた。
- ・ 解説カード、メッセージカード完成！

##### 課題

- ・ 「レヌカの学び」<sup>※1</sup>は価値観の変化をテーマにしていたけれど、「青年Mの学び」も果たしてそうなのだろうか？

※1

「レヌカの学び」って何？

小学校教諭だった土橋泰子さんが作成した開発教育教材。「レヌカ」はネパール人女性の名前で彼女が日本滞在中に様々なことを学んで変化した事を予想するゲーム。人は環境によって行動を変えながら適応して生き続けている、ということを理解しあうことで、互いの文化の共生、理解へとつなげていくことを目的としている。

(教材詳細：開発教育協会)

[http://www.dear.or.jp/world/culture/index\\_ex01.html](http://www.dear.or.jp/world/culture/index_ex01.html)

みんなで考えるとたくさんのアイデアが出てすばらしい



1回目の実践

4

第2回全体共有会(11月4日)  
「青年M」のアクティビティの実践とふり返し

成果

- ・プログラムの中で行う活動によって、参加者の心にどこの部分が強く残るかが変わること気づいた。「ひとりの青年の変化を通して世界とのつながりを意識する」ということが一番のねらいなので、「青年M」の解説やメッセージを聞いた後の活動が重要!

課題

- ・レヌカの学びとスタイルがそっくりなので参加者の印象が「価値観の多様性」にブレやすいことが判明した。ふり返りの共有の仕方を工夫してよりねらいに近づけたい。



2回目の実践

5~9

チームミーティング及び実践(11月6日、11月8日、11月19日、  
12月3日、12月10日) 「講座の流れについて検討」

成果

- ・共有会で「世界とのつながりまでねらうには無理があるのでは」という指摘もあったが、自分たちの伝えたいことは「"青年M"の変化が責任ある行動につながる」「未来を変えるのは私たち」という気づきを引き出したいということだと再確認した。

課題

- ・「青年Mの学び」には、Mの変化を参加者が短時間のうちに疑似体験(想像)し、実は自分の内なる変化に気づくというしかけもある。そのバランスがむずかしい。
- ・ねらいを効果的に伝える工夫が必要!
- ・問いかけの言葉が重要!



3回目の実践(ふくしまグローバルセミナー2007)

10~11

ふくしまグローバルセミナー2007での実践及びチームミーティング  
(12月15日~12月16日) 対象:高校生以上

成果

- ・講座の展開の仕方を工夫することで、ねらいが伝わることを実感! 実践を通して自信につながった。

課題

- ・解説後のグループワーク前の問いかけに注意が必要。
- ・Mの変化を話し合うのか? 自分自身の思い、気づき、感想を話し合うのか? で出る意見が変わる。
- ・「青年M」本人がいなくてもできるバージョンを効果的に組み立てたい。
- ・この学習プログラム案が「青年Mの学び」を導入として、様々な視点から個別の概念(テーマ)へとひっばっていきける教材であることをどのように伝えていくか。(P.19参照)

### ふくしまグローバルセミナー 2007 参加者の声

- \*「情報を知り行動したことがすごい。私も行動したいと思う。」(30代女性)
- \*「Mのメッセージ効果は大きい。崩しが良かった。」(30代男性)
- \*「視点が変化するとものの見方が変わり、そして行動が変化していった。」(40代女性)
- \*「いいと思っていてやっていたことが地球の裏側で大変なことになっていると知ったとき、行動が変わったというところに共感した。」(50代男性)
- \*「外国へ行くことで考えが変わることがよくあるが、行かなくても体験することでこんなにも変わるものだった。視野が広がることで国際協力が役立つようになると感じた。」(20代女性)



## 全体をふり返って

### 成果

○このプログラムは「青年M」の変化を通して、日常生活における6つの視点の変化に絞り「視野の広がり」を参加者自身が体験できるものとなった。「視点の広がり」から「世界とのつながりを意識し、責任ある行動へ」といった展開も可能であり、「青年Mの変化」の背後にある様々な概念をより掘り下げることができるといった、柔軟性をもった教材ができたように思う。講座の参加者からは「青年Mの変化」への多くの共感が寄せられ、大きな気づきへとつながっていった。

### 課題

●「青年Mの学び」の6つのカードにはそれぞれ別の概念が入っているので、進め方によっては全体を通してまとめることが難しくなってしまうこともある。明確な「ねらい」を念頭に置いておかないと「価値観の比較」にとどまってしまう側面もあり、この教材を扱う側が、どの概念（テーマ）に焦点をあてて講座を行うかということが重要なポイントとなる。



### 国際交流の会・かるみあ

当会は平成7年9月発足。「違いを認め合い、個性を活かせるコミュニティーづくり」を目的に、日本人、外国人が共に会員として活動している。

会の活動は、多様な文化背景を持っている会員の特性を活かし、体験講座などを実施する国際文化交流活動、会員相互が日本語学習を通して学び合う日本語学習ボランティア活動、会で培ったものを地域に発信する地域国際化協力活動などがあげられる。

特に地域国際化協力活動では、国際交流・国際理解講座などの企画提供や講師派遣、また多文化共生社会づくりに向けての受託事業の実施、提言活動により地域のネットワークづくりを行っている。

◆連絡先 〒963-8025 郡山市桑野1-22-11 サコービル3F  
市民活動センター気付 国際交流の会・かるみあ  
URL : <http://kalmia.npgo.jp/> TEL : 070 - 5622 - 6570  
E-mail : [kalmia@npgo.jp](mailto:kalmia@npgo.jp)





# 学習プログラム案完成!

遠くの笑顔がここで生まれる (視点の広がりによる行動変容)



対象 高校生～一般

時間数 8時間

P.20に  
あります

## ねらい

### 【関心・意欲・態度】

- ・主体的に自分の日常生活を見直し、世界の一員であるという自覚を持つことができる。
- ・世界とのつながりを意識することにより、より責任ある行動につなげることができる。

### 【技能・表現】

- ・自分なりの意見を述べ、他者の意見もよく聞くことができる。
- ・多様な考え方に触れる事を通して、自分なりの考えを持つことができる。

### 【知識・理解】

- ・「パーム油の話」を通してエコと言われるものの背景について知る。
- ・青年Mが変化していった要因を考えることにより、日常と世界とのつながりを意識することができる。

## 全体の流れ

### Step1 (1・2時限)

題名 「青年Mの学び」  
主な内容 視点の広がりにより世界とのつながりを意識し、責任ある行動につながっていくことに気づく。

### Step2 (3・4時限)

題名 「探してみよう！  
世界とのつながり」  
主な内容 食料品の広告(身のまわりの消耗品や備品でも良い)を見ながら、その生産国を地図上にマークして、日常生活と世界が切り離せないものだという事に気づく。

### Step3 (5・6時限)

題名 「"地球にやさしい"って何だろう？」  
主な内容 エコマーク商品によく登場するパーム油<sup>※2</sup>をとりあげ、「パーム油の話」のロールプレイにより、その生産国に起きている様々な問題の背景について知り、よりよい解決方法について考える。

### Step4 (7・8時限)

題名 「今、私たちにできること」  
主な内容 よりよい未来のために世界とのつながりを意識し、責任ある日常の行動案を出す。

※2

「パーム油の話」って何？

「地球にやさしいって何だろう？」をテーマとした開発教育教材。主にマレーシアやインドネシアで採れる天然の植物性油脂として「地球にやさしい」というイメージで、食用や洗剤、石けんなどあらゆる製品に使われているパーム油。ロールプレイを通して生産国で起きている森林の過剰伐採、生態系の破壊、過酷な労働状況など様々な問題を知り、その問題の構造と私たちとのつながりを理解すると共に、問題解決の方法を探ることをねらいとしている。

(教材詳細：開発教育協会)

<http://www.dear.or.jp/books.html#kyozai>

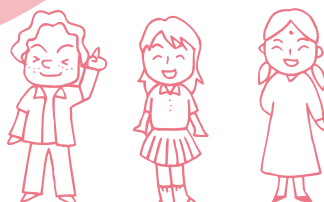
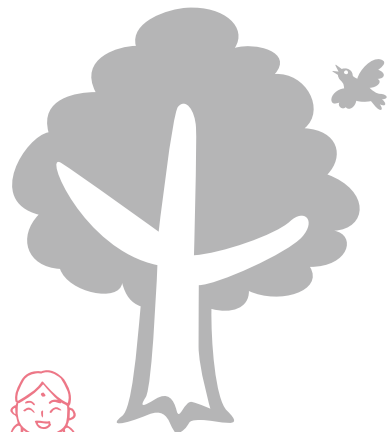
## 「遠くの笑顔がここで生まれる」 学習プログラムアレンジ案

(ステップ1の単元を導入に用いて)

ステップ1の「青年Mの学び」は、日常の6つの視点をふり返る事により、その意識の背景を考えると、うしかけになっている。

今回掲載した学習プログラム案の流れは「相互依存」を主なテーマとして8時間の流れで構成したが、他にも、この教材の背景に流れている概念(テーマ)は、「情報リテラシー」「価値観の変化」「自文化再発見」「コミュニケーション」「市民意識」「社会参加」などがある。導入として「青年Mの学び」を実施し、ステップ2、3、4は掘り下げたいねらいによって、全体の構成を変えて深めることも可能である。

なお、上記のプランは実際「国際交流の会・かみあ」が実際に出張講座として提供できるプログラムとなっている。



題名 青年Mの学び (120分)

ねらい 視点の広がりにより世界とのつながりを意識し、責任ある行動につながっていくことに気づく



準備物 アイスブレイキングカード×参加者数分、Mの変化カード(資料2、P.21に掲載)×グループ数分、Mの変化照合表A4版×グループ数分、Mの変化解説(資料3、P.22に掲載)、青年Mのメッセージ(資料1、P.21に掲載)、付箋、ポスター裏紙

内容	時間(分)	進行上のポイント
<p>1 はじめに</p> <p>(1) 伝えてみよう(アイスブレイキング)</p> <p>ドュセトダラム、テキエロ、ナクベンダ、アイラブユー (ペルシャ)、(スペイン)、(スワヒリ)、(英語)、</p> <p>4つの言語の言葉を交わし合いながら言葉の意味を探りあう</p> <p>(2) アイスブレイキングを繰り返す</p> <p>(3) 同じ言語でグループ分け</p>	20	<p>○4つの言語のアイスブレイキングカードを配布する。</p> <p>○なるべくたくさんの人と言葉を交わすことにより徐々にその意味に気づかせる。</p> <p>○緊張をほぐすとともに、あたたかい気持ちで声をかけられたかどうかを繰り返す。</p> <p>○今日の講座では家族のような気持ちで、と伝える。</p> <p>○言葉の背景たね明かし(意味はすべて「愛している」)</p>
<p>2 「青年Mの学び」</p> <p>(1) 「青年M」の紹介</p> <p>(2) 「青年M」はどんな変化をしたのだろう</p> <p>(3) このように変化した！</p> <p>(4) 気になる変化カードは？</p> <p>(5) Mの変化の解説</p>	30	<p>○簡単に「青年M」について紹介する。あえて詳細は省く。</p> <p>○「Mの変化カード」を各グループに配布する。</p> <p>○6つの日常の視点のカードを比較させ、グループ内で理由を述べ合いながら予想するよう促す。</p> <p>○「Mの変化照合表」を各グループに配布する。</p> <p>○各グループから「迷った、もめた、気になる」カードについて聞く。気になった理由を聞きながら項目ごとに紹介していく。</p> <p>○「Mの変化解説」の項目を気持ちをこめて読み上げる(読み上げた後は各グループに「Mの変化解説」を配布する)</p>
<p>3 気づき、繰り返す</p> <p>(1) 「青年M」の変化を聞いて感じたこと</p> <p>(2) グループ内で共有しよう</p> <p>(3) グループ発表</p>	40	<p>○各グループに付箋を配布し、共感、感動、新発見したことをできるだけたくさん書かせる。(最初は個人で)</p> <p>○グループ内で付箋に書いた思いを共有(傾聴)後、グループ内の意見をポスター裏紙に記入、グループごとに発表。</p>
<p>4 分かちあう</p> <p>(1) 活動全体を繰り返す</p> <p>(2) 視野を広げよう</p> <p>(3) 「青年Mの思い」の共有</p> <p>(4) 振り返りシートの記入</p>	30	<p>○「青年M」の変化の要因は何か考えるよう促す。(掘り下げたいねらいによって焦点を絞って問いかける)</p> <p>○「青年M」の解説シートの(概念)を意識させる。</p> <p>○背景を読み取る視野と行動変容の影響を考えさせる。</p> <p>○最後に「青年M」のメッセージを気持ちをこめて読む。</p> <p>○振り返りシートの記入後、ひとり一言コメント。</p>

## 資料 1

## ＜「青年M」のメッセージ＞

2年前「遠く笑顔がここで生まれる」というタイトルの国際理解講座に参加して僕は大変な衝撃を受けました。それは自分たちが普段何気なく行っていることが、遠くのどこかの国に多大な影響を及ぼしているという現実でした。それ以来、日常のさまざまな場面でその事が頭から離れなくなりました。マスメディアの情報の裏にある真実を見極めようと注意深く物事を判断するようになり、自分の行動の責任を考えるようにもなりました。世界の問題は遠い次元の話で、自分にはどうすることも出来ないと思っていた以前の自分ではなく、自分の行動ひとつひとつがとても大切だと思うようになりました。

最近読んだ本の中でとても共感する一節がありました。「どれだけ違う世界で生まれ育とうと、私たちはある共通する一点で同じ土俵に立っている。それは、たった一度の人生をより良く生きたいという願いなのだ。そう思ったとき、異国の人々の風景と自分が初めて重なり合う。」(星野道夫 著『アフリカ旅日記 - ゴンベの森へ』より)

自分はいつもどこかで誰かとつながっている。この地球上でこの瞬間を共有している。この講座を通して、そんな思いを持つきっかけになれば幸いです。そしてこういった気づきが、一人ひとりの責任ある行動につながり、さらに「遠く笑顔」につながれば、と願っています。

## 資料 2

## Mの変化カード

ビフォー

アフター

ニュースを見る時間が多い	ニュースを見る時間が少ない
時間はムダにしたくない	時間はマイペースで
日本語はやさしいと思う	日本語はむずかしいと思う
外国人との交流に英語は必要だ	外国人との交流に英語は必要ない
エコマークは環境にいい！	エコマークはどうでもいい
ボランティアは人のためだ	ボランティアは人のためではない

※この資料は予想するときに使用する「青年M」の変化カード(切り取って使用)と、変化を予想した後にどのように変化したのかを知るために配布する「Mの変化照合表」(切り取らないで各グループへ配布)との兼用。

## Mの变化解説

### 1 ニュースを見る時間が少ない（情報リテラシー）

以前は熱心に経済などのニュースをマスメディアから収集していた。しかし、「パーム油の話」の講座に参加してから、情報の背後にある矛盾に気づき「本当のこと」を読み取ろうとすることが多くなった。現場や、その現地の人の生の話を聞いて判断することの方が多くなった。「報道の伝え手の意図」というものを意識するようになったので、ニュースは前ほど熱心には見なくなった。

### 2 時間はマイペースで（価値観の変化）

以前は仕事人間だったので、利益優先、結果主義だった。いかに時間を効率的に使うかということに努力していた。しかし、様々な人とのふれあいを通して、結果よりプロセスが大切だという意識が変わった。今という瞬間を存分に味わう感覚に喜びを感じるようになり、可能な限り時間はマイペースでいこうと思うようになった。

### 3 日本語はむずかしいと思う（自文化再発見）

今はボランティアで日本語を外国人に教える活動を行っている。日本語をボランティアで教える前は、母国語なのでそんなにむずかしいとは思っていなかった。いざ教える立場になってみると、自分の知らなかったことがたくさんあることに気づいた。言葉の背景にある文化や風習などにも改めて注意を払うようになり、奥が深いものだと知った。むずかしいけれど、再発見していく楽しさを味わっている。

### 4 外国人との交流に英語は必要ない（コミュニケーション）

以前は外国人と接するには英語が話せないとダメではないかという思いもあり、交流には消極的だった。しかし、交流活動をしてみると言語以外の情報（表情、ジェスチャー、声のトーンなど）だけでも伝え合うことができることがわかった。外国人も日本語でなんとか自分に伝えようとしてくれるので、必ずしも外国人と交流するのに英語が話せることが条件とはならない。それでも、お互いをよく知るために語学を勉強したいと思っている。

### 5 エコマークはどうでもいい（情報リテラシー、相互依存）

「パーム油の話」という講座で情報の背後にある矛盾に気づき衝撃を受けたときから、「エコ商品」そのものの本質を考えるようになった。「エコマークがついているから地球にやさしい」という思い込みは捨てるようになった。実際パーム油は環境にやさしいということであらゆる商品に使用されているが、この油をとるために深刻な環境破壊がすすんでいるという皮肉な現実がある。それを知って以来、すべての商品に対して「よく考える」「情報にまどわされない」「生産者を意識する」「必要なものだけ買う」という基準で行動するようになった。だから、エコマークがあるかどうかというより、モノは増やさないとすることの方が自分にとっては大切なのだ。

### 6 ボランティアは人のためではない（社会参加、市民意識）

ボランティアはときに「他人のためにしてあげる奉仕活動」というとらえかたをされるが、日本語学習ボランティア活動や、他のボランティア活動を通して感じることは、自分がやっていて学ぶことが多く、楽しいということだ。そして、頼まれたからではなく、やりたいからやる、という自発性によって継続している。自分が楽しくうれしいとまわりも楽しくなる。そして何より自分も学べてうれしいのだ。